就実大学大学院・就実大学・就実短期大学の中期目標・中期計画に基づく各部局年度計画及び実行計画と達成状況

部局名（学部又は事務部）： 図書館事務室　　学科名：　　平成29年3月31日

中　期　計　画	中期計画期間中の具体的な取組・実行内容	部局および学科における２８年度計画と実行計画		計画達成状況	担当者評価	学長評価
		平成２８年度計画	平成２８年度実行内容			
［学生支援］ 学生が学修に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、修学支援、生活支援および進路支援を適切に行う。	キャリア支援に関する組織体制を整備し、進路選択に関わる指導・ガイダンスを実施する。	キャリア形成に繋がる資料の構築およびその積極的な利用を促す仕組み作りを行い、就労に対する意識付けを行う。	就職支援図書コーナーの充実を図る。教員採用・公務員採用試験対策図書、資格ガイド、SPI・面接試験対策図書の増冊、データベースを使った、就活応援展示の作成、教員と連携を取った採用試験対策講座を行う。	キャリアセンターの職員と協力して図書の購入を行った。また、就職支援図書の電子書籍も購入した。今後は活用方法の広報が課題となっている。 データベースを使用した就活応援展示も行ったが、学生の注意を引きつける形にはならなかったので、今後工夫が必要である。 教員と連携をとり、7月から8月にかけて司書職での就職を目指す学生のための採用試験対策講座を実施した。今後も続けていく予定である。	△	△
［教育研究等環境］ 学生の学修ならびに教員による教育研究活動を必要かつ十分に行えるよう、学習環境や教育研究環境を整備し、これを適切に管理運営する。	図書、学術雑誌、電子情報等を整備するとともに、国内外の教育研究機関との学術情報相互提供システムを整備して、学術情報サービスを充実する。	情報リテラシー教育の充実を図り、図書館内外にある、資料の有効的な活用を支援する。	教員と連携を取り、従来から有る図書館主催の利用案内だけではなく、個々の能力に応じた利用案内や主題に特化した内容を行い、既存のデータベースや電子書籍の積極的な活用を支援する。	図書館ミニミニ講座として、利用者の能力や要望に応じたリテラシー教育を実施した。また、学内教員と連携した特別講義や外部講師を招いてDBの使い方講座を行った。電子書籍については、学科と協力して、リモートアクセスの講習会を実施した。	○	○
	司書の資格等の専門能力を有する職員の配置、開館時間・閲覧室・情報検索設備などの利用環境を整備する。	図書館職員の研修を充実する。 アンケートを実施し、利用者の声を反映させた空間作りを演出する。	館内整理日を利用した研修の充実、学外研修やセルフラーニングシステムを利用した研修への積極的な参加を推進する。 利用者が快適に過ごせるよう、館内をアクティブゾーンとサイレントゾーンに区分けする演出を行う。	個人の職務に応じた館内研修を実施するとともに、学外研修やセルフラーニング研修への積極的な参加を推進した。 快適空間の演出については、ゾーン化を、限られた予算のなかで工夫して行っている。また、平成29年度予算ではより明確なゾーン化ができるよう予算要求している。 今年度利用者の要望に応えてた事項は次のとおりである。 ・貸出冊数の増冊（5冊から10冊） ・試験前や試験中の日曜日開館 ・飲食可能ゾーンの設置	○	○
【平成28年度大学・短大の主要事業計画と改革の重点事項】						

就実大学大学院・就実大学・就実短期大学の中期目標・中期計画に基づく各部局年度計画及び実行計画と達成状況

部局名（学部又は事務部）： 図書館事務室　　学科名：　　平成29年3月31日

中　期　計　画	中期計画期間中の具体的な取組・実行内容	部局および学科における２８年度計画と実行計画		計画達成状況	担当者評価	学長評価
		平成２８年度計画	平成２８年度実行内容			
［特色ある取り組み］ 主体となる学生自身が大学生活で成長を実感できるように、ビジョンとミッションを明確にしてPDCAサイクルを機能させ、学内外の変化に目を向けた大学改革を着実に実行する。	学生の成長に繋がる教育改革を推進し、教育力の飛躍的向上による就実教育ブランドを確立する。	図書館での学生協働事業を推進する。	利用者数の増加を目標とした企画を、学生自らが考え、図書館は実行に移す支援を行う。季節行事、企画展示、利用案内を行い、学生の視点を取り入れたサービスを試みる。	学生協働を推進するため、サポーターの勧誘、ブックハンティング、シンポジウム参加、図書館セミナー協力、ランチミーティング、図書館ゲーム（協賛）ユニフォームの作成等を行った。今後も学生の意見を取り入れた図書館活動を行う。	○	◎